

濟

外甲二

昭和十三年三月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年三月十八日  
昭和十三年四月十八日

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

三

陸軍大臣

五

文部大臣

五

遞信大臣

印

厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

興

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙外務大臣請議支那事變被害調査委員會

官制發布ノ件請議

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十一

去 司 局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法  
律  
月

機密

法制局外第三号

第二機密第三七〇號

東亞局第二課長 佐藤信太郎

昭和十三年四月二七日

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿

支那事變被害調査委員會官制發布ノ件請議

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也

外務大臣 廣田 弘毅



外甲二

外務省



朕支那事變被害調査委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年四月二十七日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

は(ト)

勅令第二百九十六號

支那事變被害調査委員會官制

第一條 支那事變被害調査委員會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問

ニ應ジテ支那事變ニ因リ在支帝國居留民等ノ被リタル損害ニ關ス

ル事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人及委員十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員外必要アル場

第三條 會長ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ、  
時委員ヲ置クコトヲ得

ハ委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ、  
内閣ニ於テ

之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ外務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事、  
ヲ置ク外務大臣ノ奏請ニ依リ、

外務省



理由

支那事變ニ因リ在支帝國居留民等ノ被リタル損害ニ關スル事項ヲ調査審議セシムル爲支那事變被害調査委員會ヲ設置スルノ要アルニ因ル

外務省

參考

支那事變被害調查委員會委員及幹事豫定

委員 十名

法制局 一名 參事官

外務省 四名 外務次官

東亞局長

通商局長

條約局長

大藏省 一名 局長一名

陸軍省 一名 局長一名

海軍省 一名 局長一名

商工省 一名 局長一名

案

外務省



遞信省	一名	局長一名 副員二名
幹 大 事 官	二十五名	
外務省	十一名	會計課長又八同課事務官
海軍省	三名	東亞局第一課長又八同課事務官
開工省	一名	東亞局第二課長又八同課事務官
遞信省	一名	歐亞局課長又八事務官一名
		亞米利加局課長又八事務官一名
		通商局課長又八事務官一名
		條約局第二課長又八同課事務官
		文化事業部課長又八事務官一名
		調查部第五課長又八同課事務官

外務省

計(一)

大藏省	三名
陸軍省	三名
海軍省	三名
商工省	一名
遞信省	一名

在外公館員二名

外務省

は(ト)

參照

朕滿洲事件ニ因リ損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年五月三十一日

内閣總理大臣 子爵 齋藤 實

大藏大臣 高橋 是清

外務大臣 伯爵 內田 康哉

勅令第百四十三號(官報 六月一日)

第一條 滿洲及支那ニ在リタル者又ハ同地ニ財產ヲ所有シタル者ニシテ昭和六年九月十八日以降昭和八年三月三十一日迄ノ間ニ於テ滿洲事件ニ因リ身體又ハ該財產上ニ直接損害ヲ被リタルモノニハ本令ニ依リ救恤金ヲ交付スルコトヲ得

第二條 前條ノ救恤金ノ總額ハ三百萬圓以內トス

第三條 救恤金ノ交付ハ之ヲ受ケントスル者ノ申請ニ依リ救恤審査會ノ審査ヲ經テ外務大臣之ヲ決定ス

第四條 救恤審査會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ會長一人審査員十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 會長ハ外務次官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

第七條 審査會ニ幹事若干人ヲ置テ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ

第八條 審査會ニ書記若干人ヲ置テ外務大臣之ヲ命ズ

第九條 第三條ノ申請ハ昭和八年八月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

第十條 第三條ノ規定ニ依リ申請書ハ損害ノ發生シタル地ヲ管轄スル領事館ヲ經由シ外務大臣ニ之ヲ提出スベシ但シ外務大臣ニ於テ特殊ノ事由アリト認メタル場合

ニ於テハ損害ノ發生シタル地ヲ管轄スル領事館ニ爲シタル損害ノ申告ヲ以テ右申請書ニ代フルコトヲ得

第十一條 申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 申請者ノ氏名、年齢、職業、本籍及現住地(申請者ガ法人ナルトキハ其ノ名稱及住所)

二 申請者ガ被害者ニ非ザルトキハ被害者ノ氏名、年齢、職業、本籍及現住地(被害者ガ法人ナルトキハ其ノ名稱及住所)並ニ申請者ト被害者トノ關係

三 損害發生ノ場所

四 損害發生ノ年月日

五 損害發生ノ前後ノ事情

六 損害ノ種類、程度、價格及事由

七 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第十二條 申請書ニハ成ルベク前條ニ掲グル事項ヲ證明スルニ足ルベキ證據方法ヲ開示シ證據書類及證據物件ヲ添附スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秘

說 明 書

今次支那事變ニ因リ帝國臣民ノ支那ニ於ケル生命身体財産上ノ被害ハ甚大ナル處將來之等損害ニ付支那側ニ對シ損害賠償ヲ要求スル場合ニ於テモ將又帝國政府ニ於テ之等損害ヲ救恤スル場合ニ於テモ右損害ノ額ヲ明確ナラシメ置クノ必要アリ而シテ今次事變ハ其ノ範圍極メテ廣大ナルト支那側ノ暴戾甚シキトニ依リ之等損害モ極メテ廣範圍ニ亘リ之カ調査ハ極メテ複雑ニシテ相當ノ日子ト人手トヲ必要トシ且早急之ニ着手スルノ必要アルモノトス之等調査ハ勿論現地領事館ニ於テ之ヲ行フヘキモノナリト雖モ調査ニ對スル一般方針例之直接損害、間接損害ノ限界等ノ決定ハ中央ニ於テ之ヲ行ヒ各地一様ノ標準ニテ調査ヲ行ハシムルノ必要アルヲミナラス損害額ノ決定ニ

は(ト)

付テモ現地各領事館ヨリノ調査報告ヲ整理統制スルノ要アリ而シテ  
今次事變ニ因ル損害カ紡績其ノ他諸工業<sup>業</sup>等多方面ニ互レルニモ鑑ミ  
中央ニ於テ各關係廳トモ十分連絡ノ上權威アル調査ヲ行フノ必要ア  
ルヲ以テ本官制ヲ公布セントスルモノナリ

は(ト)

(第七十三議會)

昭和十二年度

外務省所管豫定經費追加要求書

外  
務  
省

IMT 646

288

昭和十二年度外務省所管豫定經費追加要求書

甲 昭和十二年度豫定經費追加

昭和十二年度當省所管豫定經費追加要求額ハ

臨時部

五、六八一、八六二

ニシテ今茲ニ其ノ事由ヲ説明スレハ左ノ如シ

一 在支公館廳舎其ノ他被害復舊等ニ要スル經費

今次事變ニ因リ燒失又ハ損傷セル在支公館廳舎其ノ他ヲ復舊スル等ノ必要アリ依テ總額百七拾參萬七千七百八拾六圓ヲ本年度以降二箇年度ニ互ル繼續費トシ其ノ本年度年割額四拾壹萬五百圓ヲ臨時部第一款ニ豫算セリ

二 北支領事館警察ニ要スル經費ノ増加

北支ノ情勢ニ即應シ居留民保護取締等ノ完璧ヲ期スル爲領事館警察ヲ擴充スルノ必要アリ依テ之カ經費九拾壹萬八千八百四拾九圓ヲ臨時部第五款ニ追加豫算セリ

昭和十二年度

(外) 一

### 三 北支事件費ノ増加

北支事件ニ關シ居留民ノ救護、電信料、機密費等ニ要スル經費ハ曩ニ追加豫算トシテ協賛ヲ經タルモ其ノ後ノ情勢ニ依リ更ニ之ヲ増額スルノ必要アリ依テ之カ經費四百拾五萬八千四拾九圓ヲ臨時部第二十一款ニ追加豫算セリ

### 四 支那事變被害調査ニ要スル經費

今次事變ニ因リ我方ノ蒙リタル損害等ニ關シ速ニ調査ヲ行フノ必要アリ依テ之カ經費六千五拾八圓ヲ臨時部第二十二款ニ豫算セリ

### 五 通商應急對策ニ要スル經費

現下ノ情勢ニ鑑ミ通商貿易上應急對策ヲ講スルノ必要アリ依テ之カ經費拾八萬八千四百六圓ヲ臨時部第二十三款ニ豫算セリ



外務省所管

臨時部		項款	十二年度追加要求額	備考
第一款	營繕費		四一〇、五〇〇	
三	在支公館廳舍其他 被害復舊並模樣替 及新營費		四一〇、五〇〇	
一	事務費		一九、五〇〇	
二	濟南總領事館 廳舍及官舍復 舊		七五、〇〇〇	
三	濟南總領事館張店 出張所敷地買收並 廳舍及官舍復舊		三九、〇〇〇	
四	北京大使館廳 舍增築並模樣 替		六三、〇〇〇	
五	北支警察部警 察官官舍新營		五七、〇〇〇	
六	天津總領事館 廳舍增築並模 樣替		二二、五〇〇	
七	天津總領事館 警察官官舍新 營		七〇、〇〇〇	
八	青島總領事館 廳舍及官舍修 繕		五三、五〇〇	

昭和十二年度

(外) 三

昭和十二年度

(外) 四

第五款 在外國居留民臨時 保護取締費		九 上海總領事館蘇州 分館廳舍及官舍其 他修繕	一一、〇〇〇	
一 俸給	一 奏任俸給		一四、二〇六	
	二 判任俸給		一、二七八	
	三 在勤俸		三、一〇三	
	四 妻加俸		七、六三四	
二 事務費			二、二九一	
	一 巡查俸給		九〇四、六四三	
	二 給與		一九、九七〇	
	三 巡查被服及帶 具費		二一、一六三	
	四 渡切費		一七、一〇〇	
	六 外國旅費		一二三、四三九	
			二二二、九九〇	

昭和十二年度

七 妻手當及家族 旅費	九八、八九二	一北支事件費	四、一五八、〇四九	第三十款 北支事件費	四、一五八、〇四九	四 雜費	三七二、八一二	三 機密費	三、〇〇〇	九 電信料	一、七九二	八 地所家屋借料	三一、四八五	三 謀報費	三、〇〇〇	二 居留民救護費	九三二、四三六	三 電信料	七〇〇、〇〇〇	四 機密費	一、八〇〇、〇〇〇	五 雜費	一〇〇、〇〇〇	一 外國旅費	八三、八六八	二 北支事件費	四、一五八、〇四九
-------------------	--------	--------	-----------	---------------	-----------	---------	---------	----------	-------	----------	-------	-------------	--------	----------	-------	-------------	---------	----------	---------	----------	-----------	---------	---------	-----------	--------	------------	-----------

(外) 五



## 乙 繼續費

左ニ掲クル費途ニ付テハ本年度以降ノ繼續費ト爲スヲ要ス

### 一 在支公館廳舎其他被害復舊竝模様替及新營費

右ハ前ニ説明シタル事由ニ依リ總費額百七拾參萬七千七百八拾六圓ヲ本年度以降二箇年度ニ互ル繼續費トシ左ノ區分ニ依リ之カ支出ヲ要ス

款	項	目	總費額	支出年度割	
				昭和十二年度	同十三年度
營繕費	在支公館廳舎其他被害復舊竝模様替及新營費		一、七三七、七六六	四二〇、五〇〇	一、三三七、二八六
		事務費	八八、八〇六	一九、五〇〇	六九、三〇六
		濟南總領事館廳舎及官舎復舊	五三九、三八〇	七五、〇〇〇	四五四、三八〇
		濟南總領事館張店出張所敷地買收竝廳舎及官舎復舊	一四八、六八〇	三九、〇〇〇	一〇九、六八〇
		北京大使館廳舎増築竝模様替	二六三、七九〇	六三、〇〇〇	一九九、七九〇
		北支警察部警察官官舎新營	三五九、九三〇	五七、〇〇〇	三〇二、九三〇

昭和十二年度

(外) 七

昭和十二年度

天津總領事館廳舍 增築並模様替	四、七〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇
天津總領事館警察 官官舍新營	三、八〇〇	七、〇〇〇	一、六八、〇〇〇
青島總領事館廳舍 及官舍修繕	五、五〇〇	五、五〇〇	〇
上海總領事館蘇州 分館廳舍及官舍其 他修繕	一、〇〇〇	一、〇〇〇	〇

(外) 八

### 丙 翌年度ニ繰越ヲ要スル經費

左ニ掲クル費途ニ付テハ之ヲ翌年度ニ繰越使用スルノ明許ヲ要ス

#### 一 事務費 臨時部第五款 在外國居留民臨時保護取締費 第二項

北支領事館警察擴充ニ必要ナル各所修繕及設備費ハ氣候ノ關係ト土地ノ狀況トニ依リ適當ナル工事ノ材料若ハ設備ニ要スル適當ノ物品又ハ當業者ヲ其ノ所在地ニ於テ得ルコト能ハサル等ノ爲年度内ニ支出ヲ了スルコト能ハサルヤモ測リ難キニ依リ本年度ノ支出殘額ヲ翌年度ニ繰越使用スルヲ要ス

#### 二 北支事件費 臨時部第二十一款 第一項

居留民救護費ハ居留民復歸ノ遲延若ハ其ノ手續未了等ノ爲年度内ニ支出ヲ了スルヲ期シ難キト又公館ノ設備復舊ニ必要ナル特殊機械並備品等ハ其ノ所在地外ヨリ之カ購入ノ手續中年度更新ノ期ニ際スルヤモ測リ難キトニ依リ本年度ノ支出殘額ヲ翌年度ニ繰越使用スルヲ要ス





外甲二〇

昭和十三年 三月十九日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年五月十八日

内閣總理大臣 齊

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

司法大臣

農林大臣

鐵道大臣

拓務大臣

大藏大臣

興

五

五

五

五

五

五

別紙外務大臣請議對支文化事業調查會官制

中改正ニ關シ閣議請議ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法  
律  
月

密

急

法制局外第八号

二月廿八日



主

文化一機密第四〇七號

昭和十三年二月二十六日

任者 文化事業部第一課長

外務大臣 廣田 弘 毅



內閣總理大臣 公爵近 衛 文 麿 殿

對支文化事業調查會官制中改正ニ關シ閣議請議ノ件  
對支文化事業調查會官制中改正案別紙ノ通閣議ヲ請フ

外  
中  
二  
〇

外  
務  
省

IMT 646

300



朕、對支文化事業調查會官制中改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年五月十七日

內閣總理大臣

外務大臣

本件ハ對支文化事業特別會計資金運用規則ト同時ニ公布相成度

法制局



外務省

勅令第三百三十六號

對支文化事業調查會官制中左ノ通改正ス

第一條中「對支文化事業ニ關スル事項」ノ下ニ「及對支文化事業特

別會計法第九條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項」ヲ加

フ

第二條中「對支文化事業ニ關スル」

第四條第三項ヲ左ノ通改ム

學識經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタル委員ノ任期ハ二年

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ對支文化事業調查會委員ノ職ニ在ル者、ノ任期ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

外 務 省

理由書

昭和十二年法律第十二號對支文化事業特別會計法中改正法律ハヒ  
對支文化事業調査會官制中改正ヲ要スルモノアルニ依ル

外務省

# 参照

## ●對支文化事業調查會官制

大正十二年十二月二十八日  
勅令第五百二十七號

改正 大正一三年第三一四號

昭和二年第一九〇號

朕對支文化事業調查會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

對支文化事業調查會官制

第一條 對支文化事業調查會ハ外務大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジ對支文化事業ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條 調査會ハ對支文化事業ニ關スル事項ニ付外務大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條 調査會ハ會長一人及委員三十人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 會長ハ外務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ノ任期ハ四年トス但シ任期中解任スルコトヲ妨ケス

第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ外務大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第六條 調査會ニ幹事長一人及幹事若干人ヲ置ク

幹事長ハ外務省文化事業部長ヲ以テ之ニ充ツ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス  
幹事ハ外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス會長及幹事長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第七條 調査會ニ書記ヲ置ク外務大臣之ヲ命ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル對支文化事業特別會計法中改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十二年三月三十日

内閣總理大臣 林 銑十郎

大藏大臣 結城豊太郎

外務大臣 佐藤 尚武

法律第十二號(官報號外)

對支文化事業特別會計法中左ノ通改正ス

第九條 本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ、大藏省預金部ニ預入レ又ハ對支文化

事業調査會ニ諮問シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ他ノ有利且確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得

附 則

本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條第三號ニ規定スル國庫證券ニシテ一般會計ノ保有ニ屬セシメラレタルモノハ本法施行ノ際之ヲ本會計ニ歸屬セシム

前項ノ規定ニ依リ本會計ニ歸屬セシメラルベキ國庫證券ノ額面金額及其ノ昭和十二年

一月一日ヨリ同年三月三十一日迄ニ屬スル利子額ニ相當スル金額ハ之ヲ本會計ノ資金ヨリ一般會計ニ繰入ルベシ

(参照)

大正十二年三月三十日法律第三十六號對支文化事業特別會計法抄錄

第二條 左ニ掲クル證券ハ之ヲ本會計ニ歸屬セシム

三 山東勸業銀行ニ關スル條約第十五條及第十八條並山東勸業銀行總行協定第四條ノ規定ニ依リ支那國政府ヨリ交付ヲ受クル國庫證券中賠償金特別會計ニ歸屬セシメラルヘキモノヲ除キタルモノ

第九條 本會計ノ資金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得



外甲五四

昭和十三年六月二十七日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十三年六月二十七日  
昭和十三年七月一日

内閣總理大臣 友

法制局長官

外務大臣

友

陸軍大臣

文部大臣

友

逓信大臣

友

厚生大臣

友

内務大臣

友

海軍大臣

農林大臣

友

鐵道大臣

友

大藏大臣

友

司法大臣

友

商工大臣

友

拓務大臣

友

別紙外務大臣請議外務省官制  
中改正ノ件外二件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

去制局

十三

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋通

法制局外第一六号

大正廿日



主任者、人事課、

細田

昭和十三年六月一日

外務大臣 字 垣 一



内閣總理大臣 公爵近 衛 文 磨 殿

- 一 外務省官制中改正ノ件
- 一 外務部内臨時職員設置制中改正ノ件
- 一 在外公館職員定員令中改正ノ件

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也

外甲 五四

外務省

筆紙ニ付

朕外務省官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年六月三十日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第四百六十四號

外務省官制中

兼任ノ

通改正ス

第十六條中「百八十三人」ヲ「百八十五人」ニ改ム

兼任

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外務省



〔參照〕

明治三十一年十月二十日  
勅令第二百五十八號  
外務省官制抄錄

第十六條 外務屬ノ定員ハ專任百八十三人トス

外務省

朕外務部内臨時職員設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年六月三十日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省



勅令第百六十五號

外務部内臨時職員設置制中左ノ通改正ス

第二條中「書記官 專任一人」ノ次ニ「事務官 專任四人」ヲ加ス

第二條ノ四ヲ第二條ノ六トス

第二條ノ四 時局ニ關スル通商事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ

職員ヲ置キ通商局ニ屬セシム

書記官 專任二人

事務官 專任七人  
内一人ヲ勅任ト  
爲スコトヲ得

技師 專任一人

屬 專任十二人

第二條ノ五 時局ニ關スル通商、經濟及情報事務ニ從事セシムル爲

外務省

在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

領事 專任五人

副領事 專任八人

書記生 專任九人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

一、時局ニ關スル外交事務ノ繁激ニ伴ヒ東亞局及歐亞局ニ左記職員ヲ  
増置セントスルモノナリ

事務官 四

ニ支那事變進展ニ伴ヒ時局ニ關スル通商事務ノ複雑化ニ應ジ通商局  
ノ機能ノ有効適切ナル運行ヲ圖ラントスル爲之ヲ充實強化ノ要アリ  
左ノ職員ヲ増置セントスルモノナリ

書記官 二

事務官 七（内一人勅任）

技師 一

屬 一二

外務省

計（二二二）

支那事變進展ニ伴ヒ時局ニ關スル通商、經濟及情報事務處理ノ爲  
在外公館機能充實ノ要アルヲ以テ在外公館ニ左ノ職員ヲ増置セン  
トスルモノナリ

領 事 五

副 領 事 八

書 記 生 九

計（二二二）

外  
務  
省

朕在外公館職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十三年六月三十日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第四百六十六號

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス

第一條第一項第一號中「三十一人」ヲ「三十二人」ニ、同項第二號中「八十七人」ヲ「八十九人」ニ、同項第四號中「二十二二人」ヲ「二十三二人」ニ、同項第九號中「四百二人」ヲ「四百三人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

「日ソ」間ノ外交折衝日ヲ追テ増加シ在「ソ」聯邦大使館ヲ充實

スルノ要アルニ因リ左ノ職員ヲ増置セントスルモノナリ

一等書記官

二等書記官

計

(二)

ニ國際關係ノ複雑尖銳化セル現状ニ鑑ミ在外公館館務遂行上駐劬國

國語ニ堪能ナル技能者ヲ必要トスルニ因リ左ノ職員ヲ増置セント

スルモノナリ

一等通譯官

ニラトヴィア國ノ對「ソ」外交上ニ於ケル重要性ニ鑑ミ專任公使ヲ

駐在セシメントスルモノナリ

公使

一

一等書記官

一 (減)

四北支ニ於ケル文化事業ノ進展ニ伴ヒ在中華民國大使館ニ左ノ職員

ヲ増置シ該事業ノ運用統制ヲ計ラシメントスルモノナリ

一等書記官

一

書記生

一

計

(二)

以上差引左ノ通増員セントスルモノナリ

公使

一

一等書記官

一

外務省



二等書記官

一等通譯官

書記生

計

(五)

外務省

IMT 646

322

調書

原案 一等通譯官二人ノ増員ノ内一人ハ  
差當リ明治三十一年從來ノ定員内ニ充テハ  
主任官ト打合濟ナリ

第一條第一項

法制局

外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務書記生ノ定員左ノ如シ

一 特命全權公使、大使館事務官、大使館通譯官及辦理公使ノ通シテ三十一人

二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大

内閣

〔參照〕

明治三十二年六月二十日  
勅令第二百八十一號在外公館  
職員定員令抄錄

第一條第一項

外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ

一 特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辦理公使ハ通シテ三十一人

二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大

使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ八十七人

四 大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ二十二二人

六 外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通ジテ四百二人

# 參照

## 外務省官制

明治三十一年十月  
勅令第二百五十八號

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、外務大臣副署)

### 外務省官制

第一條 外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行、外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ外交官及領事官ヲ指揮監督ス

外務大臣ハ關東局ノ事務ニシテ涉外事項ニ關スルモノニ付滿洲國駐劄特命全權大使ヲ指揮監督ス

外務大臣ハ對支文化事業ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ揭グルモノノ外帝國ニ駐在スル各國外交官領事官、外國人斂勤、條約書保管及文書翻譯ニ關スル事務ヲ掌ル

第三條 外務省專任書記官ハ二十八人ヲ以テ定員トス

第四條 外務省ニ左ノ五局ヲ置ク

- 東亞局
- 歐亞局
- 亞米利加局
- 通商局
- 條約局

第五條 東亞局ニ於テハ滿洲國、支那國、香港、澳門及暹羅國ニ關スル外交事務ヲ掌ル

第三編 官制 第一章 官制 第五條 外務省及其所管

〔轉七六〕

第六條 歐亞局ニ於テハ東亞局及亞米利加局ノ掌ラザル外交事務ヲ掌ル

第六條ノ二 亞米利加局ニ於テハ亞米利加ニ於ケル諸國(カナダヲ含ム)及其ノ屬地ニ關スル外交事務並ニ移民及旅券ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 通商局ニ於テハ通商航海ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 條約局ニ於テハ條約及涉外法規事項ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 情報部ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲メ外務省ニ情報部ヲ置ク

情報部ニ部長一人ヲ置ク勅任トス外務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十條 對支文化事業ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲メ外務省ニ文化事業部ヲ置ク

文化事業部ニ部長一人ヲ置ク勅任トス外務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十一條 外務省所管事項ニ關スル調査及資料整備ノ事務ヲ掌ラシムル爲メ外務省ニ調査部ヲ置ク

調査部ニ部長一人ヲ置ク勅任トス外務大臣ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十二條 外務省ニ外務事務官專任六十四人及外務理事官專任八人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十三條 外務省ニ翻譯官專任六人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ文書翻譯ヲ掌ル

第十四條 外務省ニ電信官專任九人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ電信符號ニ關スル事項ヲ掌ル

第十五條 外務省ニ技師專任二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條 外務省ニ定員ハ專任百八十三人トス

第十七條 外務省ニ翻譯官補專任三人ヲ置ク列任トス上官ノ指揮ヲ承ケ文

三九

書翻譯及通譯ニ從事ス  
第十七條ノ二 外務省ニ電信官補專任六人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承  
ク電信符號ニ關スル事務ニ從事ス  
第十八條 外務省ニ技手專任一人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信、  
建築其ノ他技術ニ從事ス

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### ●外務部内臨時職員設置制

昭和三年五月二日  
勅令第七十八號

改正 昭和四年第一九七號、七年第一七五號、第三三五號、八年第一〇六號、九年第一號、  
第一四五號、一〇年第二三〇號、一一年第二四〇號、第三二〇號、第四五三號、一  
二年第二五六號、第五五七號、第六七九號、一三年第四四號、第二二八號  
朕昭和二年勅令第八十九號外務部内臨時職員設置ノ件改正ノ件ヲ裁可シ  
茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務  
大臣副署)

外務部内臨時職員設置制  
第一條 在外公館修築ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ  
置キ大臣官房ニ屬セシム  
技手 專任一人

第二條 時局ニ關スル外交事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ  
置キ大臣官房ニ屬セシム  
房、東亞局、歐亞局、亞米利加局及通商局  
ニ分屬セシム

- 書記官 專任一人
- 翻譯官 專任一人
- 理事官 專任一人
- 屬 專任十五人

〔在外公館ニ在リ職員ヲ置キ〕

### 專任三人

第二條ノ二 通商振興ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ  
置キ通商局ニ屬セシム  
書記官 專任一人

事務官 專任五人 内一人ヲ勅任ト  
爲スコトヲ得

技師 專任一人

第二條ノ三 通商振興ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外公館ニ左ノ職員  
ヲ置ク  
大使館商務書記官 專任三人

公使館商務書記官 專任二人

領事 專任三人

副領事 專任五人

書記生 專任一人

第二條ノ四 國際文化事業ニ關スル事務ハ當分ノ内文化事業部ニ於テ之ヲ  
掌ラシム  
國際文化事業ニ關スル事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ職員ヲ置キ文  
化事業部ニ屬セシム  
書記官 專任一人

事務官 專任二人

屬 專任四人

### 第三條 時局ニ關スル外交事務ニ從事セシムル爲外務省ニ左ノ

ムル爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

- 大使館參事官 專任一人
- 大使館一等書記官 專任一人
- 大使館三等書記官 專任一人
- 公使館三等書記官 專任四人

〔在外公館ニ在リ職員〕

〔編八五〕

第十一行全(富井納)

大使館理事官 專任一人  
 副領事 專任一人  
 外交官補 專任一人  
 領事官補 專任一人  
 書記生 專任一人  
 通譯生 專任一人

第五條、外國ニ於テ主トシテ教育ニ關スル事務ニ從事セシムル爲在外  
 公館ニ左ノ職員ヲ置ク

本館理事官 專任一人  
 副領事 專任一人  
 書記生 專任一人

第六條 外國ニ於テ主トシテ警察事務ニ從事セシムル爲領事館ニ左ノ職員  
 ヲ置ク

領事 專任二人  
 副領事 專任三人  
 書記生 專任二人  
 通譯生 專任一人

第六條 治外法權撤廢ニ因ル司法關係殘務  
 處理ノ爲在外公館ニ左ノ職員ヲ置ク

領事 專任四人  
 書記生 專任四人

附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

參照

●在外公館職員定員令

明治三十二年六月二十日  
勅令第二百八十一號

改正 明治三十二年第二〇號、三十四年第一二四號、三十五年第一九八號、三十六年第二一〇號、三十八年第一〇七號、第三十九年第一六八號、四十年第一五六號、四十二年第二二七號、四十四年第二五八號、四十四年第二〇九號、  
 大正二年第一四〇號、第二九二號、四年第一一〇號、五年第一〇六號、七年第一三二號、第二二四號、八年第二四八號、九年第四九五號、一〇年第三八七號、一二年第三三六號、第三五〇六號、一二年第一〇三號、第三八六號、一四年第一一號、一五年第一二二號、  
 昭和二年第一九二號、三年第一五五號、四年第二五三號、第二六九號、七年第三六四號、八年第一〇七號、九年第一四六號、第二三八號、一〇年第二三二號、第三一五號、一一年第三八五號、第四二〇號、一二年第二五七號、第五五八號、一三年第一二四號、  
 オシロイ

朕在外公館職員定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務大臣副署)

在外公館職員定員令

- 第一條 外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官、公使館電信官、外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ノ定員左ノ如シ
- 一 特命全權公使、大使館參事官、大使館商務參事官及辨理公使ハ通シテ三十一人
- 二 大使館一等書記官、大使館二等書記官、大使館三等書記官、大使館商務書記官、公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官及公使館商務書記官ハ通シテ八十七人
- 三 總領事、領事及貿易事務官ハ通シテ八十人
- 四 大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官ハ通シテ二十二人

92  
89

32

24



- 五 大使館理事官及公使館理事官ハ通シテ十三人
  - 六 大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ四人
  - 七 副領事ハ **九人**
  - 八 外交官補及領事官補ハ通シテ六十三人
  - 九 外務書記生、外務通譯生及外務電信書記生ハ通シテ **四百七十八人**  
前項定員ノ外訴訟事件及非訟事件ニ關スル事務並登記事務ニ從事セシムル爲領事、副領事ヲ通シテ **九人** 及外務書記生 **九人** ヲ置ク
  - 外交官領事官ヲ兼任シ又ハ領事官外交官ヲ兼任スルトキハ其ノ兼任ハ定員ノ内ニ算入セス
- 第二條 待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官及公使館電信官ハ通シテ十一人トシ前條定員ノ内ニ算入セス
- 附則  
外交官、領事官、通譯官、書記生、通譯生定員令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

日本標準規格B4(十一行全)(富井納)

IMT 646 330

IMT 646

331

330

330



昭和十三年度外務省所管對支文化事業豫算

歲出

第一款 對支文化事業費

第一項 俸給

第三目 判任俸給

第一節 屬判任 一人 九八五<sup>円</sup> 一〇、八三五<sup>円</sup>

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

第三條  
外甲二九三ノ副陸  
セラシムル増員ノ再  
提出

○以下ノ豫算ハ外務部内臨時職員設置制改正案ニ要スルモノ。

昭和十三年度 外務省 所管 豫算

歳出臨時部

第十款 臨時外交施設費

第一項 臨時外交施設費

第二目 奏任俸給

第三節 事務官 四人 三八八〇円 八八二・五二〇円



第八款、全部  
新規増員  
第三條、四

昭和十三年度外務省所管追加豫算

歳出臨時部

第八款 通商振興費

第一項 俸給

第一目 勅任俸給

勅任事務官一人分年額四千六百五十圓、割三ヶ九箇月分

第二目 奏任俸給

第一節書記官 二人 三、二二〇円 四、六八〇円 九ヶ月分

第二節事務官 六 三、八八〇 一、二九六〇 日

第三節技師 一 二、八八〇 二、一六〇 日

第三目 判任俸給 八、八六五 円

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

八全部  
員  
五

屬十二人分一年額九八五圓ノ割ニテ九月分

第十款 臨時外交施設費  
第一項 臨時外交施設費

第二目 奏任俸給

第八節 副領事

八人 二、二八〇円 一三、六八〇円 九月分

第十節 領事

五 三、〇四〇円 一一、四〇〇円

第三目 判任俸給

六、六四九円

書記生九人分一年額九百八拾五圓ノ割ニテ九月分

○以下ノ豫算ハ在外公館職員定員令改正案ニ要スルモノ。

昭和十三年度 外務省 所管 豫算  
歳出 經常部

第二款 在外公館

第一項 俸給

第一目 勅任俸給

第三節 公使 二三人 五、一〇〇 円 内 三人ハ待命三分ノ一 (三、四〇〇 円)  
一人ハ十月分 (四、七〇〇 円)

第三節 参事官 一人 五、一〇〇 五、六、一〇〇

第四節 商務参事官 一人 五、一〇〇 五、一〇〇

第二目 奏任俸給

第五節 一等書記官 二四人 三、六、四〇 円 内 二人ハ待命全額 (二、三、二四 円)  
一人ハ待命三分ノ一 (一、二、一六 円)  
一人ハ十月分 (六、〇七 円)

増員一人

増員一人  
減員一人



増員一人

増員三人

第二節 商務書記官 七人 三、六四〇円 二五、四〇〇円

第四節 二等書記官 二九 三、二〇〇 八九、〇六七円 内 一人ハ待命三分ノ一(二、〇六七円) 一人ハ六ヶ月分(二、六〇〇円)

第六節 三等書記官 三八 二、五七〇 九六、三七五円 内 二人ハ待命全額 一人ハ六ヶ月分(二、三八五円)

第七節 一等通譯官 一五 二、五七〇 三八、五五〇 後ニ増員一人

第十節 二等通譯官 九 一、五〇〇 一三、五〇〇

### 第三節 判任俸給

第一節 書記生及通譯生 四〇一人 九八五円 三九二、〇三一円 内 五人ハ電信書記生 一人ハ商務書記生 六人ハ六ヶ月分(三、九五六円)

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)



昭和十三年度外務省所管對支文化事業豫算

歲出

第一款 對支文化事業費

第一項 俸給

第二目 奏任俸給

第一節 一等書記官 一人 三、六四〇円 二、七三〇円 九月分

第三目 判任俸給

第二節 書記生 一人 九八五円 七三九円 九月分

増員一人

増員一人

昭和十三年度外務省所管追加豫算

歳出經常部

第二款 在外公館

第一項 俸給

第三目 判任俸給

第一節 書記生及通譯生

七人

九八五円

六八九五円

日本標準規格B4判(十一行全)(富井納)

IMT 646

339





大公使館通	二	二	二	二
譯官	二	一	二	一
外務書記生	四〇	三九	三	一

外務省ノ關係ニ於テ本省ニ於テモ或ハ在京大公使館或ハ經濟使節  
 團等トノ交渉激増シ來リタル處右交渉ニハ其ノ性質上高級ノ職員  
 之ニ當ルノ必要アリ  
 諸外國トノ通商交渉ハ其ノ前提トシテ國內ニ於テ通商政策乃至通  
 商交渉方針ヲ定ムルノ必要アルハ勿論ナルカ之カ爲ニ外務省ト關  
 係諸官職トノ間ニ會議乃至交渉ヲ進スルノ要アリ殊ニ最近ハ一致  
 的通商條約ノ外求價貿易清算協定等ニ付諸外國トノ間ニ交渉中ナ  
 ル案件枚舉ニ遑ラス之カ爲メニ前記ノ會議乃至交渉モ頗ル煩繁  
 ニ之ヲ行ハサルヘカヲサル處此等ノ會議乃至交渉ハ自然通商局長  
 又ハ之ニ代ルヘキ勅任官級ノ者之ヲ主宰スルノ必要アリ  
 更ニ是處其ノ他ノ關係官廳ニ於テ通商問題ニ關係アル會議類等

外務省

は(一)



一三、六、二二

今次通商局増員中事務官一人ヲ勅任トスル理由

支那事變ノ進展ニ伴ヒ時局ニ關スル通商事務頗ル複雑シ殊ニ諸外國トノ關係ニ於テ本省ニ於テモ或ハ在京大公使館或ハ經濟使節團等トノ交渉激増シ來リタル處右交渉ニハ其ノ性質上高級ノ職員之ニ當ルノ必要アリ

諸外國トノ通商交渉ハ其ノ前提トシテ國內ニ於テ通商政策乃至通商交渉方針ヲ定ムルノ必要アルハ勿論ナルカ之カ爲ニ外務省ト關係諸官廳トノ間ニ會議乃至交渉ヲ重ヌルノ要アリ殊ニ最近ハ一般的通商條約ノ外求償貿易清算協定等ニ付諸外國トノ間ニ交渉中ナル案件枚擧ニ違アラス之カ爲メニ前記ノ會議乃至交渉モ頗ル頻繁ニ之ヲ行ハサルヘカラサル處此等ノ會議乃至交渉ハ自然通商局長又ハ之ニ代ルヘキ勅任官級ノ者之ヲ主宰スルノ必要アリ  
更ニ企畫院其ノ他ノ關係官廳ニ於テ通商問題ニ關係アル會議頻繁

外務省

は(ト)

ニ開催セラルル處此ノ場合ニ於テモ通商局長又ハ之ニ代ルヘキ勅  
任官級ノ者ノ出席ヲ要スルコト少カラス

然ルニ前記一及二ノ交渉乃至會議ハ日ヲ同ウシテ多數行ハルルコ  
ト極メテ多ク一日ニ數箇ノ會議乃至交渉競合シ通商局長及現在ノ  
勅任事務官ノミニテハ到底間ニ合ハス事務遂行上支障少カラサル  
實狀ナルニ付更ニ今回増員セラルヘキ事務官中一人ヲ勅任トナシ  
右ノ如キ缺陷ヲ補ハントスル次第ナリ

外  
務  
省



外務省分課規程中改正案

本規程第十三條ヲ左ノ通改ム

通商局ニ第一課、第二課、第三課、第四課、第五課及第六課ヲ置ク  
第一課ニ於テハ通商航海ニ關スル一般的政策及制度ニ關スル事務ヲ  
掌ル

第二課ニ於テハ庶務、商報及博覽會其ノ他通商局ノ他課ニ於テ分擔  
スルヲ不適當トスル事務ヲ掌ル

第三課ニ於テハ「ソヴィエト」聯邦及亞細亞ニ關スル事務ヲ掌ル  
第四課ニ於テハ「ソヴィエト」聯邦ヲ除ク歐洲ニ關スル事務ヲ掌ル

第五課ニ於テハ亞米利加ニ關スル事務ヲ掌ル  
第六課ニ於テハ前三項ニ指クル地域以外ノ地域ニ關スル事務ヲ掌ル

(一三、六、一四)

通商局 (長)

(勅任事務官)

(勅任事務官)

第一課 度 貿易振興其ノ他一般通商政策及制

第二課 庶務、商報及博覽會其ノ他通商局  
ノ他課ニ於テ分擔スルヲ不適當ト  
スル事務

第三課 「ソ」聯、亞細亞

第四課 「ソ」聯ヲ除ク歐洲

第五課 米 洲

第六課 其ノ他ノ地域



人員配屬豫定表

通商局	第一課	第二課	第三課	第四課	第五課	第六課	計
局長							
勅任事務官							
書記官	一	一	一	一	一	一	六
事務官	六	二	二	四	三	三	二二
理事官							
技師		一	一				二
屬			一				丑 二
			〇				九 二
			一				八 一
			一				八 一
計	三	七	三	五	二	三	六 六

346

IMT 640



官制改正後ニ於ケル通商局事務分擔表（案）

第一課

A 事務官 1、輸出振興ニ關スル方策立案

2、貿易振興協議會ニ關スル事務

3、内外經濟狀況ノ調査

B 事務官 1、物資動員協議會ニ關スル事務

2、海外邦人企業、資源開發ニ關スル事務

3、一般的資源ノ調査、開發問題ノ研究

4、關稅調查委員會關係事務

C 事務官 1、現ニ發生シツツアル對日經濟壓迫應急對策

2、或想定ノ下ニ於ケル對日經濟壓迫對策

は(イ)

外務省

3、本邦及諸外國通商政策關係資料ノ作成、蒐集、整備及研究

4、諸外國間通商條約及通商經濟關係國際條約ノ蒐集、整備及研究

5、貿易機構問題

D 事務官1、「クレディット」問題

2、生産力擴充委員會ニ關スル事務

3、對南方策協議會ニ關スル事務

4、鐵鋼協議會ニ關スル事務

E 事務官1、總動員法關係事務

2、國際聯盟ノ經濟活動及米國中立法關係事務

3、通商經濟關係國際會議及經濟關係國際條約ニ關スル

事務

4、外國海運ニ關スル一般的制度實情調査及研究

外  
務  
省

は(ト)

F 事務官 1、外國ニ於ケル爲替及輸入管理制度ノ研究

2、對外爲替清算協定ノ基礎的研究並立案

3、求償協定及在外邦人企業ノ見地ヨリスル爲替交渉案件處理方針ノ研究立案

第二課

A 事務官 1、商標其他工業所有權關係事務

2、國內法關係事務

3、領事館關係事務

4、商務官關係事務

5、名譽領事關係事務

6、在外本邦實業者調ノ編纂

7、在外本邦人產業貿易功勞者表彰事務

8、外國官民ニ對スル本邦通商經濟ニ關スル情報ノ提供

9、通商局豫算

外務省

は(ト)

10、在外公館ニ對スル内地經濟狀況ノ定期電報  
B事務官1、内外官民ニ對スル便宜供與

2、通商局日報及海外經濟事情ノ編輯並出版

3、通商局出版物ノ統一、編纂(例通商ノ動向、執務報告)

4、博覽會及見本市關係事務(日本萬國博覽會)

5、在外本邦商工會議所ノ指導及助長

6、其ノ他地域のニ分擔スルヲ不適當トスル一切ノ通商局關係事務

第三課

A事務官

B事務官

C事務官

滿洲國、支那、香港關係事務及庶務

印度支那、馬來半島、暹羅國、英領印度、「ネパール」國、「ブータン」國、「ビルマ」關係事務

外務省

D 事務官

「ソヴィエト」聯邦、「アフガニスタン」國、「イラン」國、「イラク」國、「トルコ」國、「パレス  
タイン」、「トランスジヨルダン」、「シリア」及「  
レバノン」地方、「アラビア」地方關係事務

第四課

A 事務官

波蘭、芬蘭、「リニアニア」、「ラトヴィア」、「  
エストニア」、瑞典、諾威、丁抹關係事務及庶務  
獨逸、洪牙利、和蘭、「チェッコ」、英國、「ブル

B 事務官

C 事務官

ガリア」、「希臘及「ユーゴスラヴィア」關係事務  
佛蘭西、瑞西、伊太利、白耳義、葡萄牙、西班牙、  
「アルバニア」、「ルーマニア」關係事務

第五課

A 事務官

加奈陀關係事務及庶務

B 事務官

北米合衆國及比律賓關係事務

外務省

は(ト)

C 事務官

中米關係事務

D 事務官

南米關係事務

第六課

A 事務官

太平洋關係事務及庶務

B 事務官

蘭領印度、英領北「ボルネオ」及葡領「チモール」

關係事務

C 事務官

阿弗利加關係事務

外務省

外務部内臨時職員設置制中改正ノ件  
ニ关スル説明書

(昭十三五十七)  
東亞局第一課

外務省

13.1

IMT 646

353

は(下)



各館別配屬豫定表

地名	領事	副領事	書記生	計
香港	一	一	一	三
上海	二	三	三	八
青島	一	一	一	三
濟南	一	一	一	三
張家口	一	一	一	三
天津	五	八	九	二二
計				

外務省

は(イ)

○香港總領事館

配屬豫定人員 領事、副領事、書記生、

香港ハ目下漢口政府唯一ノ主要對外交通路ニシテ各國ヨリノ武器輸入ノ要衝ニ當ルノミナラス支那側ノ對外交通ノ中樞ニシテ漢口政府要人等ノ駐在及來往頻繁ナルモノアリ廣東ヲ控ヘ南支方面ニ於ケル我万唯一ノ情報蒐集及政治工作ノ中樞ニシテ同總領事館ハ極度ノ活動ヲナシ居ル處目下甚シク手不足ナルヲ以テ此ノ際臨時職員トシテ國民政府ノ政情、財政狀況、英國其他第三國ノ策動等ニ關スル情報ノ蒐集ヲ完ウセンカ爲冒頭人員ヲ配屬セシメントスル次第ナリ

備考

現在配屬人員

總領事一、副領事二、(一名庶務一般、一名支那關係情報)書記生六、會計、通商、情報、文書、庶務、電信

○上海總領事館

配屬豫定人員 領事二、副領事三、書記生三、上海ハ從來ヨリ帝國ノ對中南支經濟發展ノ根據地ニシテ多數ノ在留邦人及本邦商社アル外各國大公使館、領事館アリ又共同租界、佛蘭西租界、税關、工部局等第三國關係ノ諸事務極メテ多ク且陸海軍武官及陸戰隊ノ常駐スルアリ同地總領事館事務ノ廣汎多岐ナルコト到底他公館ノ比ニ非サリシモ拘ラス同地總領事館ノ豫算定員ハ明治二十四年總領事館昇格當時ノモノニシテ僅ニ總領事一、領事二、副領事三、領事官補一、書記生七ノ小人數ニ過キス館務遂行上甚シク困難ヲ感シ

已ムヲ得ス大使館其ノ他他館ヨリノ應接ニ依リ且下總務(會計、電  
信、文書、記録)行政、被害調査、政務、情報、經濟、司法警察ノ  
各部ニ分チ能ク適重ナル分擔ニ堪ヘツツ辛ウシテ館務ノ處理ヲナシ  
居ル狀態ナルカ上海總領事館トシテハ北京大使館充實ノ必要ニ基ク  
應接大使館員ノ引揚ニ依ル人員不足ヲ豫想セラルル一萬戰火ニ依リ  
灰燼ニ歸セル同地在留邦人ノ總額約五千四百萬圓ニ達スル被害ノ復  
興ニ關スル事務竝ニ中支方面ニ於ケル經濟開發國策ニ基ク鐵道、鐵  
山、通信、航運、電氣、水產、紡績、水道等各種企業ノ調査、立案、  
指導、調節等ノ事務ノ處理ハ焦眉ノ急ヲ要スル次第ニシテ一萬第三  
國關係ニ於テモ同方面ニ於ケル帝國勢力ノ伸張ニ伴ヒ英、米、工部  
局等トノ間ニ於ケル各種ノ涉外案件續發シ現ニ同總領事館ニ於テ至

急調査ヲ要スル賠償關係案件ノミニテモ約三百件ニ達スル現状ニア  
 リ更ニ同地ノ特殊性ニ基キ支那政界及財界方面要人ノ香港漢口方面  
 トノ往來頻繁ニシテ國民政府竝ニ右ヲ繞ル第三國側ノ策動等ニ關ス  
 ル情報ノ入手ハ同地ニ於テ之ヲ行フコト頗ル便ナル關係モアリ向總  
 領事館ノ事務ハ益々繁劇ヲ加ヘ來ルヘキ狀況ニアルヲ以テ差當リ冒  
 頭要員ヲ同館ニ増加シ主トシテ經濟關係竝ニ情報關係事務ニ從事セ  
 シメントスル次第ナリ  
 備一考案ハ同地ニ行フ必要業務切ナルモノアリテ是ニ應ジテ主ト  
 現在配屬人員ニ補ラシムル為ニ要員ヲ追加セントスルハ必要ナリ  
 總領事一領事七一何レモ大使館書記官ヲ本任トスル兼任領事一副領  
 事一領事官補九、書記生一九、一以上ノ數ハ司法警察關係ヲ含マズ  
 外ニ參事官一、大使館書記官一、總領事一

は(イ)

外務省

○青島總領事館

配屬豫定人員、領事、副領事、書記生、會計、支那關係、庶務、  
 青島在留氏ハ既ニ約一萬人ノ復歸ヲ見支那人モ三十數万ニ暴變前四  
 十五六万ニ歸來シ著々復興ノ途ニ着キツツアリ同地總領事館トシテ  
 ハ紡績工場其ノ他支那側ニ破壞セラレタル既存權益ノ復興ニ關スル  
 事務竝ニ膠濟沿線ヲ中心トシ山東一帯ニ及フヘキ嶺山、塩業、水産  
 業及煙草、棉花等ノ特産物等ニ關スル各種經濟開發ニ付必要ナル調  
 査、立案、調節等ヲ行フ必要緊切ナルモノアルニ至レルヲ以テ主ト  
 シテ之カ處理ニ當ラシムル爲差當リ冒頭要員ヲ配屬セントスル次第  
 ナリ同地ニ必要ナル調査、立案、調節等ノ進行ニ足ラざるニ就テハ  
 備置考案、調査、復舊等ノ事務ヲ請託セザルニテ、同地ニ必要ナル人員ヲ配

は(イ)

外務省

現在配屬人員

總領事一、領事一、副領事一、書記生五（文書、會計、支那關係、庶務、

電信一

○濟南總領事館

配屬豫定人員 副領事一、書記生一、

四月一日現在邦人ノ在留スルモノ約二千七百名ニ達シ同地ヲ中心トシ山東津浦沿線鐵山・棉花・紡績等ノ諸事業ニ關シ邦人ノ進出顯著ナルモノアリ右ニ關シ必要ナル調査、指導等ヲナスト共ニ今後同地ヲ中心トシ山東省西南部ヨリ臨海線方面ニ及フヘキ我方ノ經濟的進出ニ對應シ必要ナル調査、立案ヲ行ヒ且支那側ニ破壞セラレタル我方既存經濟權益ノ復興事務ヲ處理セシメンカ爲差當リ冒頭人員ヲ配

は(イ)

外務省

屬セシメントスル次第ナリ

備考

現在配屬人員

總領事、副領事、書記生五（會計、文書、通商、電信、支那關係）

○張家口總領事館

配屬豫定人員 領事、副領事、書記生、

張家口ハ現在邦人ノ住居スルモノ一千名ヲ突破シ更ニ京綏沿線奧地タル大同、綏遠、包頭方面ニモ邦人ノ進出著シキモノアリ鐵礦、炭田等鑛山ノ開發、羊毛、獸皮等ノ買付等邦人商社企業家ノ進出又目覺マシク更ニ將來我軍作戰ノ進展ニ伴ヒ遠ク寧夏、甘肅、新疆ニ直ル廣大ナル背後地ニ對スル政治上、經濟上必要ナル情報蒐集等モ主

は(イ)

外務省



トシテ張家口總領事館ニ於テ之ヲ主宰セサルヘカラサル位置ニ在リ  
 仍テ冒頭要員ヲ同館ニ配屬シ主トシテ對蘇、回教及蒙古關係調査事  
 務並ニ經濟<sup>上</sup>ノ必要ナル事務ニ從事セシメントスル次第ナリ  
 備考

現在人員 總領事一、副領事一、書記生三

⊕天津總領事館

配屬豫定人員 副領事一、書記生三

天津ハ事變以來邦人ノ進出著ク既ニ二萬ヲ突破シ依然北支那ニ於  
 ケル經濟ノ中心ニシテ今後我方北支經濟開發モ主トシテ同地万ヲ中  
 樞トスヘキ狀態ナルニ鑑ミ冒頭要員ヲ天津總領事館通商經濟關係職  
 員トシテ其ノ充實ヲ期シ我方經濟工作ノ實施ニ遺漏ナカラシメント

は(イ)

スル次第ナリ

昭和十三年九月八日

内閣書記官長

内閣書記官

備考

現在配屬人員 總領事一、領事三、一總務、經濟、民團關係一、副領事四、  
一、支那關係、通商、朝鮮人、會計一書記生九

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



士族大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙外務大臣請議此將外務省ニ外

又顧問ヲ置クノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

外務省



外甲八〇

昭和十三年九月八日

内閣書記官長



内閣書記官



佐藤



昭和十三年九月九日



内閣總理大臣

齋藤

法制局長官



外務大臣

齋藤

陸軍大臣

東條

文部大臣

齋藤

逓信大臣

齋藤

厚生大臣

齋藤

内務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙外務大臣請議臨時外務省ニ外

交顧問ヲ置クノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

十四

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法制局



原簿ノ簿到ニ依ルニ可ク知ルル其ノ

去書  
大書  
一  
一

外務大臣 宇垣 一

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿 殿

臨時外務省ニ外交顧問ヲ置クノ件

本件ニ關シ別紙案文ノ通勅令御發布相成候様致度此段及請議候也



外甲八〇

外務省

朕臨時外務省ニ外交顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 昭和十三年九月九日

内閣總理大臣

外務大臣

外務省

勅令第六百三十二號

支那事變ニ關スル外交上ノ機務ニ參畫セシムル爲臨時外務省ニ外交顧問三人以内ヲ置ク  
外交顧問ハ外交ニ關シ練達堪能ナル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス  
外交顧問ハ親任官ノ待遇トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

支那事變ノ重大性ニ鑑ミ同事變ニ對處スル外交方策ノ萬全ヲ期スル  
爲臨時外務省ニ外交顧問ヲ置キ外交上ノ機務ニ參畫セシメ常時外務  
大臣ヲ輔ケシムル要アルニ由ル



参照

●昭和十二年勅令第七百三十一號  
(臨時大藏省ニ顧問ヲ置クノ件)

昭和十二年十二月二十七日  
勅令第七百三十一號

朕臨時大藏省ニ顧問ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、大藏  
支那事變ニ處スル國內金融及國際金融ニ關シ概要ノ事項ニ參畫セシムル爲  
臨時大藏省ニ顧問若干人ヲ置ク  
大藏省顧問ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ勅命ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



内閣

昭和十年勅令  
第六十一号ヲ  
以テ廢止ス

參

照

内閣審議會官制

昭和十年五月  
勅令第一百十八號

(總理大臣副署)

第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ  
副會長ハ國務大臣ノ中ヨリ之ヲ勅命ス  
委員ハ線達堪能ノ者ノ中ヨリ簡拔シテ之ヲ勅命ス

日本國政府  
十一月廿九日  
勅令  
第一百十八號

參照

○外交官及領事官官制

明治三十三年六月  
勅令第百八十九號

(總理、外務  
大臣副署)



第十條 外交官又ハ領事官ニシテ一時外國在勤ヲ免シタル者ヲ待命トス  
 待命ノ外交官及領事官ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セシ其ノ他本令及  
 在外公館費用條例ニ特別ノ規定アル事項ヲ除ク外總テ在職官吏ト異ナル  
 コトナシ

待命ノ外交官及領事官ハ臨時外務省ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得此ノ  
 場合ニ於テハ在職官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

待命ハ滿三箇年ヲ以テ期トス期滿レハ其ノ官ヲ免スルモノトス

待命ノ外交官及領事官ニハ休職ヲ命スルコトヲ得ス

前各項ノ規定ハ貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館二等通譯官、公  
 使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官及公使館電信官ニ之  
 ヲ適用ス

参照

○在外公館職員定員令

明治三十三年六月  
勅令第三百八十一號

(總理外務  
大臣副署)

第二條 待命ノ外交官、領事官、貿易事務官、大使館一等通譯官、大使館  
二等通譯官、公使館一等通譯官、公使館二等通譯官、大使館電信官及公使  
館電信官ハ通シテ十一人トシ前條定員ノ内ニ算入セス